

Part 1 | Designers Message

デザイナーが語る 未来へのメッセージ

暮らし方が大きく変わったこの数か月。
デザイナーたちが考える暮らし方、そしてインテリアとは？

Photos AAAAAAAAAA, AAAAAAAAAA Realization MICHIO YAMADA,



Philippe Starck

フィリップ・スタルク

カモンド美術学校卒業。ピエールカルダンのアートディレクターとして活動後、独立。商業施設の内装から家具のデザインまで世界中で活躍。www.starck.com/

「私は森の中の小屋で修道士のような生活をしていましたが、心で旅ができ最高でした。机からベッドまで1m、ベッドが1m、それしか必要なのです。何年も前からファッション業界は消費者に外出を奨励してきましたが、今ベクトルが逆となり、インテリアデザインは大きな産業となり始めました。私が20年以上前にカッシーナから発表した、家で仕事するための「レイジーワーキングソファ」は先見の明がありました」



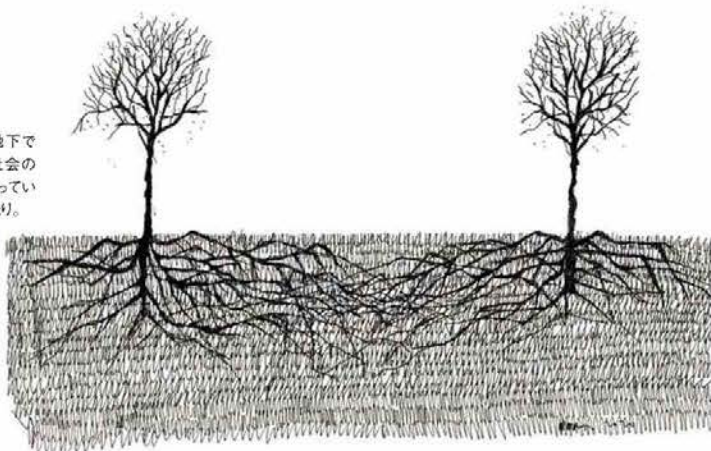
「旅をするのは好きではなかったが、心で旅をするのは最高」とイラストで表現。

“本当に必要なのは
直径2mの手が届く範囲”

イラストで描くステイホーム

自宅で過ごした日々を、4人のデザイナーたちに描いてもらった。そこから見えた、これからの社会、未来の暮らし方とは？

離れた木々が地下で交わるように、社会の繋がり方が変わっていく図を描いたふたり。



「上海に戻ってからホテルで2週間、自宅に戻り2週間、計4週間の隔離生活をするなかで、世界と周りの人のスピードに合わせて忙しすぎることに慣れてしまっていたことに気が付きました。これから公共空間は、PCやスマホなど画面の中になるでしょう。オンラインで人と合うことに慣れ、仕事は家でできるようになり、自宅の空間は大きく変わると思います。家への評価がより高まっていくのだと思っています」

“物理的なつながりが減り、
新しい普通がすぐ見つかる”



Neri & Hu

ネリ&フー

リンデン・ネリ(左)とロッサーナ・フー(右)によって設立された、上海が拠点のデザインスタジオ。2004年にコンセプトストア、デザインリパブリックを創設。neriandhu.com